

令和 1 (2 0 1 9) 年度 事業報告書

(平成 3 1 (2 0 1 9) 年 4 月 1 日から令和 2 (2 0 2 0) 年 3 月 3 1 日まで)

1 概要

本財団は 1945 年 4 月 4 日に財団法人海洋化学研究所（文部省所管）として設立され、2012 年 4 月 1 日に一般財団法人海洋化学研究所（京都府所管）へ移行し、2016 年 9 月 1 日からは、公益認定を得て一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017 年 12 月 21 日からは、変更認定を得て内閣府所管の公益財団法人となった。

本財団は、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として（公 1）～（公 3）の事業を行う。

賛助会員の数は、個人会員が 104 名、学生会員が 6 名、法人・団体会員が 5 法人である。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員 4 名、理事 5 名、監事 2 名である。

法人の職員は、常勤職員が 1 名である。

2 （公 1）学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の 2 種類である。

ア 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1 件 150 万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、海外の大学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1 件 30 万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2019 年 11 月 16 日から 2020 年 2 月 7 日

まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用いて、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の6名である。

平木敬三(近畿大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

加藤義久(東海大学名誉教授)

2020年2月29日、選考委員会が開催され助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2020年3月7日に理事会にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

ア 研究助成金 (9名、合計 8,250 千円)

代表者氏名	代表者所属・職名	研究題目	助成金額(千円)
高野祥太郎	京都大学化学研究所・助教	沈降粒子中微量金属同位体比分析による海洋における微量金属循環の解明	1,100
南秀樹	東海大学生物学部・教授	深海底堆積物中における生物活性微量金属元素の動態解明	600
鄭臨潔	京都大学化学研究所・助教	南太平洋およびインド洋における微量金属の断面解析	750
久保篤史	静岡大学理学部地球科学科・助教	海藻海草場における二酸化炭素吸収量と生成有機物の分解特性評価	900
近藤能子	長崎大学・総合生産科学域/大学院水産・環境科学総合研究科・准教授	内湾域貧酸素水塊における鉄の分布と化学的形態	1,000
漢那直也	北海道大学北極域研究センター・博士研究員	積雪および海氷中の還元態鉄の生成過程	1,000
佐久川弘	広島大学大学院統合生命科学研究科・特任教授	瀬戸内海における農薬の物質収支およびリスクアセスメントに関する研究	900

張勁	富山大学学術研究部理学系・教授	東シナ海外部陸棚域における貧酸素水塊の拡大とその生態系への影響	1,100
丸尾雅啓	滋賀県立大学環境科学部・教授	海水中リン循環の潜在的要素とされる有機ホスホン酸の定量法開発	900
小計			8,250

イ 海外渡航費に関する助成金（1名、合計 250 千円）

代表者氏名	代表者所属・職名	渡航目的・渡航先	助成金額（千円）
陳卓然	京都大学大学院理学研究科・修士課程 2 年	Goldschmidt2020 学会にて "Distributions of dissolved trace metals (Al, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Cd, and Pb) during GEOTRACES Japan KH-17-3 cruise in the subarctic North Pacific Ocean." についての研究発表と学術交流 渡航先：ホノルル，米国	250
小計			250

3 （公2）学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

第 39 回石橋雅義先生記念講演会

2019 年 4 月 27 日（土）午後 1 時 30 分～午後 5 時、京都大学百周年時計台記念館にて開催。

講演会に先立って以下の者に、学術賞及び奨励賞を与えた。

- 第 34 回海洋化学学術賞を東京大学大気海洋研究所・教授 佐野有司氏に授与

- 第3回海洋化学奨励賞（40歳未満）を国立研究開発法人海洋研究開発機構・研究員 川口慎介氏に授与
- 海洋化学奨励賞（30歳未満）を国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター・日本学術振興会特別研究員 PD 坂田昂平氏に授与

続いて、受賞者が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

- 第2回海洋化学奨励賞受賞記念講演
 - U30（30歳未満）
「エアロゾルのクリーン採取法の開発による微量金属の溶解性と大気化学反応の関連性の解明」 国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター・日本学術振興会特別研究員 PD 坂田昂平氏
 - U40（40歳未満）
「化学組成解析に基づく海洋-地圏-生物圏相互作用の追求」 国立研究開発法人海洋研究開発機構・研究員 川口慎介氏
- 第34回海洋化学学術賞受賞記念講演
「安定同位体を用いた海洋地球化学の研究」 東京大学大気海洋研究所・教授 佐野有司氏
- 出席者 52名

73周年秋季講演会

2019年11月16日（土）午後1時30分～午後4時15分、京京都大学宇治おうばくプラザにて開催。演題、講演者は以下のとおり。

- 「人間と生物が関与するグローバルな大気化学研究の最前線」 国立環境研究所地球環境研究センター・地球大気化学研究室長 谷本浩志氏
- 「北極海-太平洋における放射性ヨウ素 I-129 の分布—加速器質量分析法による人為起源の長寿命放射性核種の分析」 日本大学文理学部化学科・教授 永井尚生氏
- 出席者 33名

京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に、「化学者クラブ」との団体があるわけではなく、主催団体は、本財団である。

年	月日	題目	講演者	所属
2019	4月6日	メタゲノミクスを用いた大規模海洋調査	遠藤 藤寿	京都大学化学研究所附属バイオインフォマテイクスセンター助教

2019	5月11日	同位体環境学と共同研究の展開	陀 安 一郎	総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター 教授
2019	6月1日	環境科学・考古科学・と分析化学 ～X線分析と分子軌道計算の活用～	藤 原 学	龍谷大学理工学部物質 化学科教授
2019	7月6日	振動を感知して生きる蜘蛛—博物館の視点から—	小 野 展嗣	元国立科学博物館研究 主幹
2019	8月3日	日本最古の暦：スズ暦とアスズ暦の仕組み	梶 慶 輔	京都大学名誉教授
2019	9月7日	神経伝達物質が関与する塩味の作用をだまして健康に	植 野 洋志	龍谷大学農学部教授・奈良女子大学名誉教授
2019	10月5日	ハンガリーにおける科学と技術の歴史	向 山 毅	京都大学名誉教授
2019	12月7日	放射性セシウムの生態系への影響とカイコを用いた評価系について	木野内 忠稔	京都大学複合原子力科学 研究所講師
2020	2月1日	地磁気とオーロラ	荒 木 徹	京都大学名誉教授
2020	3月7日	医薬品の工業化研究、製造における分析技術の寄与と現状	上 田 正史	株式会社ヘリオス生産 部エキスパート

4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

海洋化学研究（第32巻1号）を2019年4月27日に発行。内容は、以下のとおりである。

巻頭言	予測の科学	村井重夫
受賞記念論文	海洋表層・大気下層の物質循環に関する研究	植松光夫

受賞記念論文	Determination of subnanomolar zinc and its speciation in seawater with improved clean sampling and analytical method	Taejin Kim
総合論文	珪藻が変える海洋化学，地球環境	赤木右
総合論文	同位体生理・生態学の動向—自然界の食物連鎖を中心として	和田英太郎
月例卓話	SI 単位の再定義—キログラム原器はどうなるの？—	千葉光一
月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう！ 第二章——マイクロ波加熱による反応さまざま——	松村竹子
月例卓話	琵琶湖など閉鎖性水域における難分解性有機物の起源解明—リアルタイム PCR を用いる藻類の影響評価—	山田悦
月例卓話	酸塩基指示薬プロモチモールブルーの色と分子構造	島田透
月例卓話	シジミ貝雑話	中西正巳
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	近藤能子
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	真塩麻彩実
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	鄭臨潔
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	坂田昂平
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	長谷川浩
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	南秀樹
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	辻阪誠
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	森本健志
学術助成報告	平成 30 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（海外渡航助成）成果報告書	田中裕里子

海洋化学研究 (32 卷 2 号) を 2019 年 11 月 16 日に発行。主要な内容は、以下のとおりである。

巻頭言	海洋環境の変化と海洋化学研究の重要性	山田悦
受賞記念論文	安定同位体を用いた海洋地球化学の研究—私の研究— 回想録—	佐野有司
受賞記念論文	化学組成解析に基づく海洋—地圏—生物圏相互作用の追求	川口慎介
受賞記念論文	エアロゾルのクリーン採取法の開発による微量金属の溶解性と大気化学反応の関連性の解明	坂田昂平
月例卓話	生命起源の謎に迫る [GADV] —タンパク質ワールド仮説—これまで生命の起源を解明できなかった理由—	池原健二
月例卓話	環境水の <i>in vitro</i> バイオアッセイによる包括的安全性評価	中室克彦
月例卓話	メタゲノミクスを用いた大規模海洋調査	遠藤寿
月例卓話	環境科学・考古科学と分析化学～X線分析と分子軌道計算の活用～	藤原学
月例卓話	振動を感知して生きる蜘蛛 博物館の視点から	小野展嗣

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。

URLは、<http://www.oceanochemistry.org/>

以上

**令和1(2019)年度
事業報告書の附属明細書**

(平成31(2019)年4月1日から令和2(2020)年3月31日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上